

株式会社菊池化成

環境経営レポート

2023 年度

(2023 年 10 月～2024 年 9 月)

株式会社菊池化成

作成日：2024 年 11 月 11 日



認証番号 0007753

目 次

P3：環境活動の概要・環境活動対象範囲

- 1 事業所名および代表者名
- 2 所在地
- 3 環境管理責任者
- 4 事業活動の内容
- 5 会社概要
- 6 事業の規模

P4： 7 環境負荷

- 8 環境活動対象範囲
- 9 事業年度
- 10 情報公開項目
 - (1) 許可の内容
 - (2) 施設等の状況

- P5：
 - (3) 処理実績
 - (4) 廃棄物処理料金
 - (5) 製造の内容

P6：1 環境活動組織

P7：2 環境経営方針

P8：3 環境目標及びその実績（本社工場）

P9： 環境目標及びその実績（富士宮工場）

P10：4 環境活動計画の取り組みとその評価 次年度の取り組み内容

P11：5 環境関連法規状況の確認および評価の結果ならびに訴訟の有無 6 代表者による全体評価の見直しと結果

事業活動の概要・環境活動対象範囲

1.事業所名及び代表者名

事業所名	株式会社菊池化成
代表者名	代表取締役社長 菊池 真悟

2.所在地

本社工場	埼玉県八潮市大瀬 4-2-5
富士宮工場	静岡県富士宮市淀平町 706

3.環境管理責任者

最高責任者	代表取締役社長	菊池 真悟
環境管理責任者	総務部	菊池 茂
EA21 事務局担当者	総務部	菊池 茂
連絡先	TEL	048-996-7155
	FAX	048-996-7159
	URL	http://www.kikuchikasei.co.jp
	E-mail	ea21@kikuchikasei.co.jp

4.事業活動の内容

事業活動の内容	・ PVC 再生コンパウンド ・ オレフィン系樹脂再生
---------	--

5.会社概要

法人設立年月日	昭和 50 年 5 月 1 日
資本金	3,000 万円
組織図	2. 環境活動組織概要に記載
売上高	641 百万円（2023 年度実績）

6. 事業の規模

事業規模	単位	合計	本社工場	富士宮工場
売上高	百万円	641	641	—
従業員数	人	23	15	8
床面積	m ²	1,038	744	294

7. 環境負荷

環境負荷	単位	合計	本社工場	富士宮工場
二酸化炭素排出総量 (電力+軽油)	kg-CO ₂	663,821	621,844	41,977
廃棄物排出量	t	60	45	15
総排水量(水使用量)	m ³	1,790	1,481	309
化学物質使用量	k g	—	—	—

※ 当社の二酸化炭素排出総量は668,616kg-CO₂でした。

8. 環境活動対象範囲

本社工場：平成 23 年認証登録

富士宮工場：平成 26 年認証登録

9. 事業年度

10 月～9 月

10. 情報公開項目

(1) 許可の内容

	埼玉県	山梨県	静岡県
許可番号	01110031457	01900031457	02201031457
許可年月日	平成 23 年 8 月 10 日	平成 9 年 10 月 6 日	平成 22 年 8 月 10 日
許可の有効年月日	令和 8 年 5 月 12 日	令和 9 年 10 月 5 日	令和 7 年 8 月 9 日
事業の範囲	廃プラスチック類 (積替保管を含む)	廃プラスチック類	廃プラスチック類
区分	産業廃棄物収集運搬業許可		
事業計画の概要	同県の事業場から排出される上記廃棄物を収集し、再生材にリサイクルを行う。		

(2) 施設等の状況

	埼玉県	山梨県	静岡県
積替保管施設の面積と保管上限量	保管面積： 199.4 m ² 保管上限量：219.4 m ³	—	—
運搬車両の種類と台数	中型車両 1 台、大型車両 1 台 (自動車 NO _x ・PM 法適合車)		

(3) 処理実績

産業廃棄物収集運搬業許可を有しているが、当社では実績はありません。

(4) 廃棄物処理料金

処理実績がないため、廃棄物処理料金は発生しておりません。

(5) 製造の内容

①製造施設の種類

分離機、混合機、射出成形機等

②製造のための原料の種類

ポリエチレン、ポリプロピレン、塩ビ等

③製造能力

本社工場 : 7,000 トン／年

富士宮工場 : 1,800 トン／年

④生産方式

・本社工場 : 切断→粉砕→風力選別→袋詰め

混合→押出→造粒→袋詰め

・富士宮工場 : 切断→粉砕→袋詰め

⑤製造工程

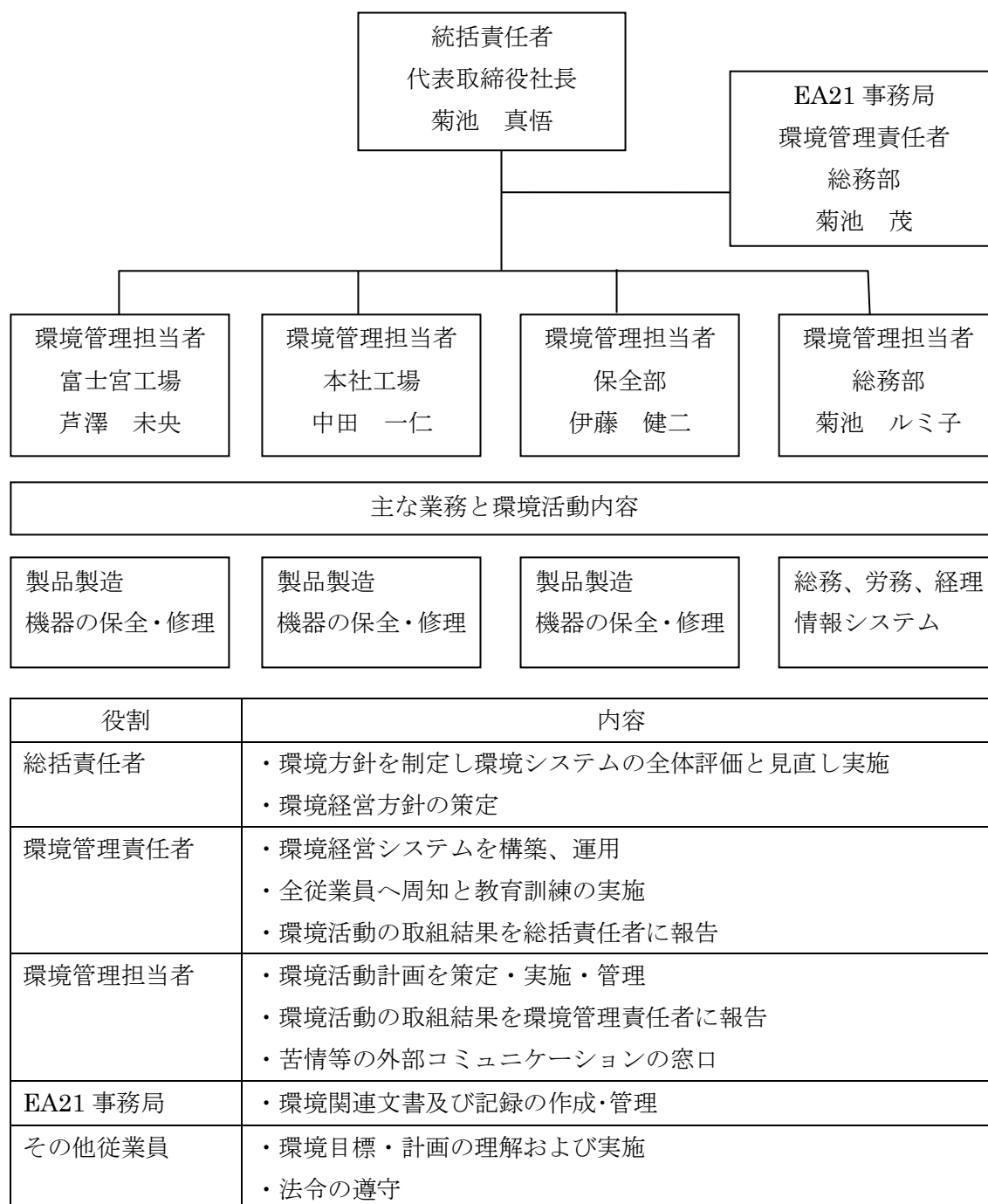
分離→混合→射出成形

⑥取り扱い実績 (2023 年度製造量)

本社工場 : 5,534 トン

富士宮工場 : 1,227 トン

1. 環境活動組織



2. 環境経営方針

＜基本理念＞

私たちはますます深刻化する地球温暖化や地下資源の枯渇への対応が重要課題であるとの認識に立ち、プラスチックの再生原料材の生産、販売を中心とした事業活動の中で、積極的に資源環境の保全につとめ、環境にやさしい企業活動を行います。

＜基本方針＞

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①環境配慮製品・技術・サービスの提供

- ・ リサイクル材料の拡販
- ・ リサイクル技術の確立
- ・ 環境情報の提供

②二酸化炭素排出量の削減

- ・ 電力（工場、事務所）
- ・ 自動車燃料（トラック）

③廃棄物の削減及び再資源化の推進

④水使用量の削減

2.環境関連法令を遵守し、環境保全の向上に努めます。

この環境経営方針は組織で働く人及び組織の為に働く人全てに周知するとともに、一般の人が入手可能とします。

制定日：2021年4月1日

株式会社菊池化成

代表取締役社長 菊池真悟

3. 環境目標及びその実績

本社工場

項目		年度	2019 年	2022 年	2023 年			2024 年
			基準年 度	実績	目標 基準年度比	実績	結果	目標 基準年度比
二酸化炭素排出 量削減 (電力+軽油)	kg-CO ₂		629,265	621,844 98%	619,826 98.5%	637,008 101%	×	629,265 100%
一般/産業廃棄物 の削減	t/年		43.00	41.71 97%	41.71 97%	44.90 104%	×	43.00 100%
節水	m ³ /年		1,290	1,593 123%	1,290 100%	1,558 120%	×	1290 100%
グリーン購入の 推進	・環境配慮事務用品 ・環境配慮電気・電子機器の購入		・環境配慮事務用品の購入。 ・環境配慮電気・電子機器の購入		・環境配慮事務用品の購入。 ・環境配慮電気・電子機器の購入	・再生コピー用紙・再生トナー等の購入、 ・省エネ型のパソコンの購入	○	・環境配慮事務用品の購入。 ・環境配慮電気・電子機器の購入
環境配慮製品・技術・サービスの提供	・リサイクル材料の拡販 ・リサイクル技術の確立		・生産能力拡大の為、押出機の新規購入完了		・リサイクル材料の拡販 ・リサイクル技術の確立	・再生床材、再生自動車内装材の拡販はほぼ目標通り実施。	○	・リサイクル材料の拡販 ・リサイクル技術の確立

注 1：電力の二酸化炭素排出係数：0.434kg-co₂/kWh（2020 年東京電力の二酸化炭素実排出係数）を使用。

富士宮工場

項目 \ 年度		2019 年	2022 年	2023 年			2024 年
		基準年度	実績 基準年度比	目標 基準年度比	実績	結果	目標 基準年度比
二酸化炭素排出量 削減（電力+軽油）	kg-CO ₂	49,005	41,997 85.6%	48,024 98%	43,360 88.4%	○	49,005 100%
一般/産業廃棄物の 削減	t／年	12	15 125%	12 98%	15 125%	×	15 125%
節水	m ³ ／年	386	309	386	250	○	388
グリーン購入の推 進	・ 環境配慮事務用品 ・ 環境配慮電気・電子機 器の購入	・ 環境配慮事務 用品の購入。 ・ 環境配慮電 気・電子機器の 購入	・ 環境配慮事務 用品の購入。 ・ 環境配慮電 気・電子機器の 購入	・ ほぼ 100%達 成 ・ パソコン、そ の他電子機器 については購 入段階で実施。	○	・ 再生コピー用紙・ 再生トナー等の購 入、 ・ 省エネ型のパソコンの 購入	
環境配慮製品・技 術・サービスの提 供	・ リサイクル材料の拡 販	・ リサイクル材 料の拡販 ・ リサイクル技 術の確立	・ リサイクル材 料の拡販 ・ リサイクル技 術の確立	・ 工程内不良のリ サイクルの拡販 はほぼ目標通り 実施。	○	・ リサイクル材料の 拡販	

注 1：二酸化炭素排出係数：0.434kg-co₂/kWh（2020 年東京電力の二酸化炭素実排出係数）

4. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

取組内容	取組結果とその評価状況		次年度の取組内容
<u>電力の削減</u> ・冷暖房節約(28℃、20℃) ・設備の空運転防止	冷暖房の取組は実施できた。 今後は空運転防止の具体的手順を作成する。	○	今後も空運転防止や不要な場所の点灯、消灯など節電に注意する。
<u>ガソリン使用量の削減</u> ・急加速・急停車の防止 ・低燃費車へ更新	今後ドライバーが燃費を意識できるよう、給油時に燃費を測る取組みを進める	○	経済的な運転（エコドライブ）を意識し、効率的な運転方法、経路を検討する。
<u>産業廃棄物（廃プラ）の削減</u> ・工程ロスの削減	早急に工程ロスの削減策を立案すること 上振れの原因の分析を進めること	○	早急に工程ロスの削減策の立案。
<u>節水</u> ・水循環機構の使用手順改善	節水の説明会を実施。	○	上振れの原因を進めること。
<u>環境配慮製品・技術・サービスの提供</u> ・リサイクル材料の拡販 ・リサイクル技術の確立	・再生床材、再生自動車内装材の拡販を達成。 ・本社工場にて押出機の更新。 ・富士宮工場にて集塵機の導入。	○	本社にて既存の顧客・新規顧客への PR。 富士宮工場の顧客 PR 継続

5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に關係する環境関連法規等は下記の通りですが、下記のように遵守状況を 2024 年 10 月に確認しました。また、関連機関からの違反等の指摘も外部からの苦情も、過去 3 年間ありません。

区分	法規制名	遵守内容	評価の結果
廃棄物	廃棄物処理法	保管基準、 マニフェスト交付管理 マニフェスト交付管理状況提出	○
浄化槽	浄化槽法	定期的な清掃及び水質検査	○
騒音振動	騒音・振動規制法	合成樹脂粉碎機 合成樹脂成型機	○
エアコン スポットクーラー	フロン排出抑制法	3 ヶ月毎の簡易点検	○

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

運用システムに沿って運用を着実に実行できている。

従業員全員が省エネを意識して、空室の電源・エアコンのオフ、使用していない機器の電源オフなど、細かいところも配慮して励行していった。

また、工場、事務所内の照明の LED 化を順次進めていっている。

年度末にトラックの新規入れ替えを行い、自社における輸送量が増えたため、次年度以降は軽油使用量が増える見込みなので、それを踏まえた上で環境目標を修正していきたいと思う。

前年度に比べ生産量は横ばいだったが、売り上げとしては前年度を上回り、新しい検査機器の導入もあり、高品質の製品を提供できていると感じる。

環境目標は未達の部分が多いが、さらに見直せる部分は見直して、今後も社員各位の意識向上に努め、継続できている部分は引き続き継続し、目標未達の部分は達成できるよう努力していきたい。エコアクション活動も 13 年目になり、マンネリ化を防ぎ、引き続き全社的に環境経営に意識して取り組みたい。

・総括の見直しの結果

環境経営方針	…	変更なし
目標計画	…	変更なし
実施体制	…	変更なし